

専門科目 産業環境保健学分野

(博士後期課程)

科目名	環境保健学特論Ⅱ	code number : OEH 213	選択	1 単位
-----	----------	--------------------------	----	------

科目責任者	津田 洋子 講師						
配当年次	1年次	配当学期	後期(後半)	曜日・時限	水曜 1,2時限	授業方法	講義

## 1. 授業の概要

人は様々な環境からの影響を制御して健康を保っている。とくに産業革命以降は自ら作り出した有害な環境をも制御し、健康を維持せざるをえなくなっている。現在、地球自身の限界も踏まえた世界的な取り組みも進められている。環境保健学は、環境からの有害影響をその要因から理解し、対策を検討することを目的としている。「環境保健学特論Ⅱ」で学んだ環境リスク論を踏まえ、現在注目されている環境有害要因への詳細な対策事例を紹介することで、環境保健に対する深い理解を促し、他の環境有害要因への対策検討ができるようになることを狙いとする。

## 2. 授業の到達目標

## 【一般目標(GIO)】

1. 人間の健康と環境の関係、とくに物理的、化学的、生物的有害要因と疾病との関係を理解し、それらへの対策を検討できる。

## 【行動目標(SBO)】

1. 米国NRC(全米研究評議会)が提示したリスクアセスメント・リスクマネジメントの手順と各ステップを環境リスク管理に活用できる。
2. 環境マネジメントシステムについて理解し、活用できる。
3. 産業保健および環境保健上の大きな問題になっているアスベスト(石綿)について深い理解を得て、対策に活用できる。
4. 神経毒性(含発達神経毒性・生殖毒性)の評価について詳しく学び、毒性学の考え方を活用できる。

## 3. 成績評価の方法および基準

- (1) レポート(80%)
- (2) 議論への参加(20%)
- (3) レポートを再提出または期限に遅れて提出の場合は、原則として減点の対象とする。

## 4. 教科書・テキスト

・原則として講義資料を使用する。

## 5. 参考書

- ・森澤眞輔. 環境の汚染とヒトの健康－健康のリスクをどう防ぐ－, コロナ社, 2011.
- ・中西準子, 他. 演習 環境リスクを計算する. 岩波書店, 2003.
- ・その他、講義の中で紹介する。

## 6. 事前事後学修の内容およびそれに必要な時間

- ・森澤眞輔の『環境の汚染とヒトの健康－健康のリスクをどう防ぐ－』を事前に通読し、環境リスク管理の考え方を大まかに理解しておく。
- ・前回までに学んだ環境リスク管理のステップ内容を復習し、当日の講義のキーワードについての予習が望まれる。
- ・当該期間に15時間以上の予復習が必要。

## 7. その他履修上の注意事項

- ・レポートに対し、講義の中あるいは個別に解説等のフィードバックを行い、再提出を求める場合がある。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

## &lt;授業計画&gt;

## 環境保健学特論Ⅱ

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	11/20(水)	1	津田 洋子 講師	一般環境管理論 ・環境影響評価とその課題／・環境法体系、環境基準、排出基準、条例
2	11/20(水)	2	津田 洋子 講師	環境マネジメントシステム ・マネジメントシステムの規格化の流れ／・ISO規格／・環境アセスメント法 ・一般環境管理の実際、排ガス処理・管理__公害管理者／・環境計量士
3	12/4(水)	1	津田 洋子 講師	化学的有害因子__石綿Ⅰ ・戦後の最大規模の労災／・分析から対策まで
4	12/4(水)	2	津田 洋子 講師	化学的有害因子__石綿Ⅱ ・石綿のリスクと対策
5	12/18(水)	1	神山 宣彦 講師(非)	環境疫学 ・環境疫学の基本的事項の解説 ・環境疫学の適用例の紹介
6	12/18(水)	2	神山 宣彦 講師(非)	環境疫学の実際 ・環境疫学の基本的事項の解説 ・環境疫学の適用例の紹介
7	12/25(水)	1	神山 宣彦 講師(非)	化学的有害因子__石綿Ⅲ ・国の豊かさと対策の関係性
8	12/25(水)	2	津田 洋子 講師	まとめ